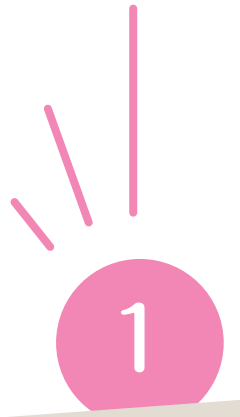


徳島から発信する、農業の未来。

JA とくしまけん



JA Tokushimaken public relations
2024 April



JA徳島県4月1日に発足



徳島県が9 J Aに合併認可書交付 J A徳島県4月1日発足



徳島県は3月22日、4月1日発足のJ A徳島県に参画する9 J Aに、合併認可書を交付しました。認可書を交付されたのは、板野郡、名西郡、アグリあなん、かいふ、徳島北、あわ市、麻植郡、美馬、阿波みよしの各J Aです。

県庁で行われた交付式で、徳島県の伊藤大輔副知事は「合併で発足する新J Aは、広大なエリアで多種多様な品目を扱うことになる。スケールメリットを生かした販売力の強化が期待される。農家の経営基盤強化に向けて、使命と役割を果たしていただきたい」と話しました。

J Aグループ徳島合併協議会の会長、J A板野郡の橋本浩組合長は「地域農業の発展と、住民の生活向上へ、持続可能な農業経営が展開できるよう、若い農家のためにも役職員一丸となって、事業に邁進することを誓う」と決意を述べました。



組 合 長

ご

挨拶

撈

徳島県農業協同組合
代表理事組合長

橋 本

浩

令和6年4月1日より徳島県内9 J Aが合併し、「徳島県農業協同組合」が発足いたしました。

J Aを取巻く環境は、日銀がマイナス金利解除を決定したものの、預金・貸出金の大幅な金利上昇が当面期待できないなか、円安や地政学的リスクによる物価の高騰は解消の目途が立たないという、非常に厳しい状況が続いています。こうした中、県下に分散する経営資源を集約することで、安定的な経営基盤を確立し、組合員に寄り添ったサービスの持続的提供を可能にしなければなりません。

合併により、対外交渉力の強化を図り、私のモットーである「購買事業は1円でも安く、販売事業は1円でも高く」を実現すべく、役職員が一丸となって汗をかき、知恵や創意工夫を重ね、様々な取り組みに挑戦してまいります。

また、役職員が高い倫理意識をもって業務に取り組みようコンプライアンス教育の充実を図り、J Aに最も必要な「利他の心」を育んでまいります。

もちろん、合併により画一的な組織となるのではなく、旧J A単位に担当常務を配置し、各地域の特色を活かした運営を行ってまいります。

「組合員の、組合員による、組合員のためのJ A」という協同組合の基本を忘れることなく、「農業所得の向上」と「地域社会への貢献」というJ Aの本命題実現に向け、今まで以上に皆様のもとへ足を運び、ご意見・ご要望を伺い、迅速に対応することで、皆様から「なくてはならないJ A」と心から実感いただけるよう、粉骨砕身取り組んで参る所存です。

今後とも皆様のご指導・ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

JA徳島県 第1期役員紹介

4月1日開催の理事会で第1期の役員体制が決定致しました。JA徳島県の事業運営にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



理事
坂本 英司



理事
久禮羽 哲



理事
岸本 行宏



理事
尾崎 澄子



理事
小川 耕司



常務理事(信用・共済担当)
和田 美則



代表理事専務
西條 雅夫



代表理事専務
秦野 毅



副組合長理事
大西 常夫



代表理事組合長
橋本 浩



理事
中西富士男



理事
土井 京子



理事
竹原 廣紀



理事
住友美佐子



理事
塩田 正幸



常務理事(板野郡地区担当)
藤井 晴夫



常務理事(かいふ地区担当)
山本 強



常務理事(アグリおなん地区担当)
田中 覚



常務理事(名西郡地区担当)
河野 克史



常務理事(経済担当)
天羽 啓二



理事
山下 勝也



理事
茂治 博仁



理事
松丸 哲祐



理事
牧本 久代



理事
仁木 英介



常務理事(阿波みよし地区担当)
松本 浩典



常務理事(美馬地区担当)
前田 実



常務理事(麻植郡地区担当)
前田 洋治



常務理事(あわ市地区担当)
都築 正三



常務理事(徳島北地区担当)
藤川 浩



監事
武澤 守



監事
久米 基敬



監事
喜多 輝光



常勤監事
小森 英彦



代表監事
國安 治



理事(信用共済副委員長)
荒田 宏明



理事(総務副委員長)
伊原 武



理事(経済委員長)
佐原 宏司



理事(信用共済委員長)
藤本 博明



理事(総務委員長)
打樋 昌之



JA徳島県



監事
吉田 和弘



監事
津井溜和広



理事
夷谷 義光



理事
上田 大樹



理事
石川 安沖



理事
藍原桂太郎



理事(経済副委員長)
麻植 正一

JA 徳島県農家紹介

各地域の生産部会長に
“JA 徳島県誕生に期待すること”
を伺いました。



大毛島らっきょ部会（鳴門市）46戸で28畝のらっきょうを栽培。
販売高：2億9000万円

吉成豊文部会長

「らっきょうは、徳島県下では唯一の産地で、地域団体商標『鳴門らっきょ』としてより安心・安全で『信頼』できる商品を出荷し、部会員全員でブランド名を高めるため一致団結した部会だ。物価高騰の影響・高齢化・人手不足等さまざまな問題がでてきており農家戸数がどんどんと減少している。らっきょうは出荷調整作業に時間がかかる作物であり、季節商材となり出荷時間に限りがあるため、出荷期間を少しでも延ばすため、加工部門等にも力を入れ産地を守る取り組みをお願いしたい」



ブロッコリー部会（阿波市）410戸で250畝のブロッコリーを栽培。
販売高：8億2000万円（令和4年度作）

新藤義文部会長

「ブロッコリーは10年で全国的に出荷量が3割近く増えており、農水省は2026年度から半世紀ぶりに「指定野菜」に加えることを決めるなど、とても勢いがある品目だ。JA 徳島県で唯一すべての地域で作付されている品目なので、全域で一致団結して徳島県のブロッコリー栽培を発展させたいと思う」



洋人参部会（吉野川市<旧麻植郡>）35名で80畝の春人参を栽培。
販売高：5億7500万円（令和5年度）

近久昌之部会長

「肥料や被覆資材等の価格高騰により、農家経営は厳しくなっている。また、人参農家が減少してきているので、新農協一丸となって対応して欲しい。具体的には、スケールメリットを活かした資材等の高騰対策や、洋人参を生産するメリット作り（農家支援の強化）等による農業に取り組む“人”を増やしていくことに期待している」



なす部会（美馬市）53戸で3・5畝の夏秋なすを栽培。
販売高：9100万円

鎌田真博部会長

「広域な産地となることで、市場が求める品質の農産物を一定量安定供給することにより、産地としてブランド価値を高めることに期待する。また、天候や資材高騰などに影響を受けやすい農業だからこそ、地域の農家が連携してそれらのリスクを対処していけるようになればいいと思う」



ブロッコリー部会（三好市、三好郡）30戸で30畝のブロッコリーとカリフラワーを栽培。販売高：2000万円。

上野博部会長

「先進技術や栽培方法の共有、営農指導等により、新規の生産者や若い生産者の農業や経営の支援をし、生産者数や栽培面積の増加、各戸の栽培・品質の強化に繋げていってくれることを期待する。また、資材や肥料の高騰が続いているため、価格を抑えるなどの支援にも期待している」



人参連絡協議会（板野郡）189戸で625畝の人参を栽培。
販売高：53億3000万円

生田圭一郎部会長

「JA 板野郡では過去にも合併をしているが、生産者とJAの距離が年々遠のいているように感じる。今回の合併では、そのようなことがないように、さらには生産者とJAの距離を縮め生産者が利用しやすく、信頼できるJAになるよう期待している」



すだち振興部会（名西郡）491戸で87畝のすだちを栽培。
販売高：3億8000万円（過去5年平均）。

田中一重部会長

「神山町は日本一の「すだち」生産量を誇るが、近年、生産者の高齢化等により生産量が減少している。昨今、資材価格は高騰しているにもかかわらず、生産単価は上昇していない。合併を機に、周年供給体制を構築しスケールメリットを生かした販売戦略を立て農家所得の増大に努めて頂きたい。最後に、組合員とJAが十分な対話を行い、なくてはならないJAであることを期待する」



水稲部会（阿南市・那賀町）1772戸で1910畝の水稲を栽培。
コシヒカリ「阿波美人」の早場米産地。
販売高：7億4000万円（令和3年度実績）

大宮敏彦部会長

「JAと共に徳島県に合った水稲の品種を選定するため、試験に取り組み、有望品種の栽培を目指したい。農業人口の多い高齢農家を地域密着できめ細かく支援してもらえるようお願いしている。スケールメリットを活かした肥料農薬の価格高騰対策に期待している」



胡瓜部会（海部郡）30戸で5畝の胡瓜を栽培。
販売高：3億600万円

西田真示部会長

「合併による広域産地としてのメリットを活かし、販売量増大・有利販売による所得向上を期待したい。また、資材高騰対策を目に見える形で取り組んで頂きたいと思う。農産物の価格転嫁も合併JAで強力に取り組んでもらいたい。さらには、地域の手不足解消に向けた取り組みや、新規生産者を増やしていく取り組みを充実して頂ければと思う。資材高騰の折新規ハウスの建設は厳しいと思うが新JAに期待したい」

JA徳島県広報誌では、鳴門市出身でモデル・タレントとして活躍中、北島町でカフェを経営する犬伏まりさん監修のレシピを紹介しますので、ぜひご家庭で挑戦してみてください。

犬伏まりさんより

「徳島の春にんじんといえば、全国でも有名。皮が薄く、火を通せば柔らかく甘味のしっかりした人参です。すりおろしてドレッシングにしたり、スープや、そのままスパイスと絡めてグリルでも！人参だけで主役おかずにできる食材です。栄養価も高く、油との相性がいいのでぜひ炒め物におすすめです」

MARI Recipe

春にんじん



四国放送「ゴジカル」出演中
2児の母として育児に奮闘中

調理時間
30分

「春にんじんのお手軽チヂミ」

- 材料（2人分）
- | | |
|-------|---------|
| 春にんじん | 1本 220g |
| だしの素 | 小さじ1 |
| 薄力粉 | 大さじ3 |
| 片栗粉 | 大さじ1 |
| 塩 | 小さじ1/4 |
| 水 | 大さじ3 |



POINT

人参の千切り幅を、均一にしておくとき焼くときに火の通りがムラなく焼けますよ

- 1 人参は皮を剥いて半分はすりおろし、半分は千切りにする。
- 2 ボウルに、薄力粉、片栗粉、だしの素、水を入れダマにならないよう混ぜる。
- 3 次に、すりおろした人参を加え、全体が混ざれば千切りも加えてさっくり和える。
- 4 フライパンに、ごま油をひき中火にかけ、温まったら生地を流し入れ2分焼く。
- 5 ひっくり返して1分半焼いたら、再びひっくり返し火をとめ完成。

★食べやすいサイズにカットし、お皿に盛り合わせる。

おまけ：チヂミのタレレシピ

- | | |
|-----|------|
| 酢 | 大さじ1 |
| 醤油 | 大さじ1 |
| ごま油 | 小さじ1 |
| 白ごま | 適量 |



JA徳島県

創刊号

令和6年5月1日発行(隔月発行)

発行：徳島県農業協同組合

徳島市北佐古一番町5番12号(JA会館3階)

代表電話番号 088(634)2330

印刷：株式会社 中央印刷



JA徳島県HP

編集
後記

いよいよJA徳島県が誕生しました。佐古の本部拠点から一番遠い取材先で言うと“かいふのきゅうりタウン”や“三野のはれひめ(みかん)”の取材に行けることを楽しみにしています。まだ行ったことのない場所に取材に行けること、知らないことを知れることに広報担当者は心躍らせています。“ほなけんJA徳島県はいいよなー”って言うっていただける広報活動ができるよう、精一杯努めますので、よろしく願いいたします。

JA徳島県企画管理部秘書広報課一同